



## 第 1 部

# 序 論



## 福祉



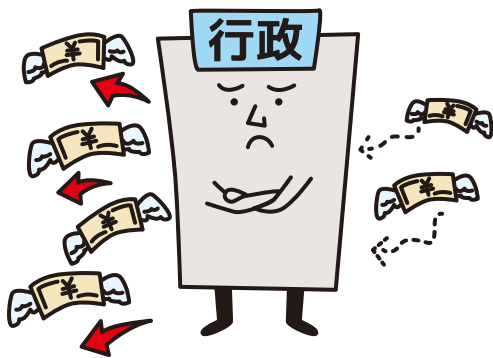
- 介護需要と供給のミスマッチ
- 認知症患者が増加

## 医療



- 通院、入院需要の増加による医療費の増大
- 医療従事者の不足

## 財政



- 社会保障費の増大による負担増
- 生産年齢人口の減少による税収減
- 新たな財源の確保

# 大刀洗町社会

## 防災・治安



- 集中豪雨等の大規模災害の増加
- 空き家の増加による環境・治安の悪化

## 教育・子育て



- 年少人口※の減少
- 学校の統廃合
- 待機児童問題

※年少人口……0歳から14歳までの人口。  
 ※生産年齢人口…15歳から64歳までの人口。  
 ※遊休農地……以前は耕作されていたが、過去1年以上耕作されていない農地。または、耕作されているが管理が不十分な農地。  
 ※ICT……情報や通信に関する技術の総称。  
 ※AI……人工知能。

# 公共インフラ



- 高度経済成長期に集中投資したインフラや公共施設の老朽化

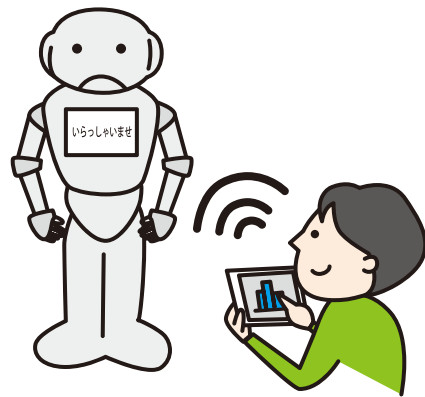
# 土地・住宅



- 遊休農地\*が増加
- 空き家の増加

# ICT

# を取り巻く 情勢



# 労働

- 人材不足をICT\*やAI\*で補填
- 教育分野でのICTの活用が増加
- 安全性の確保が課題

# 産業



- 後継者不足
- 国内市場の縮小と国際競争の激化



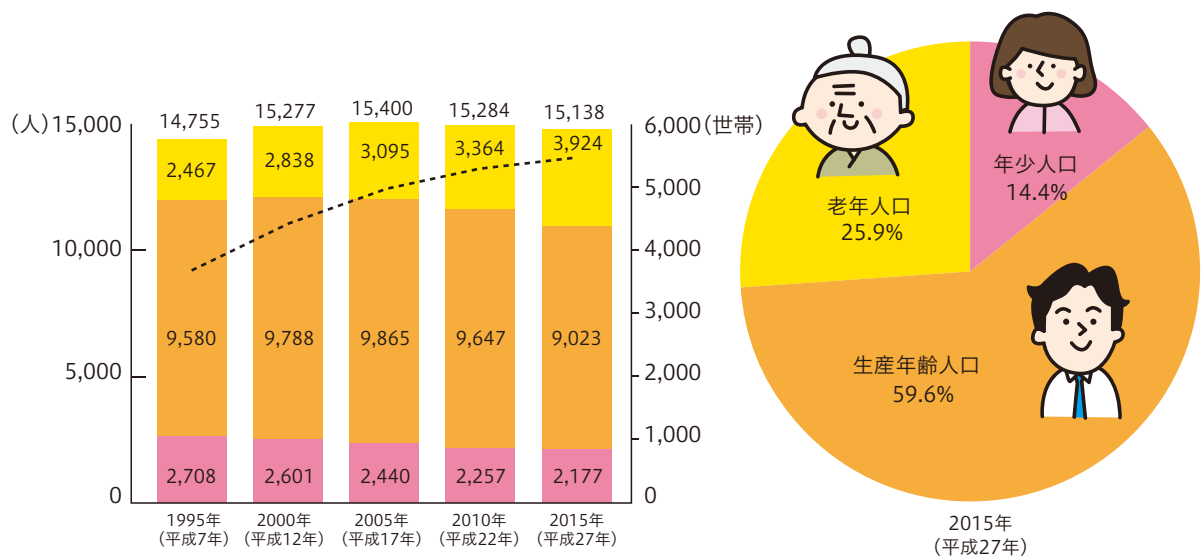
- 生産年齢人口\*の減少による労働力の低下
- 子育て・介護と就労の両立
- 外国人労働者の増加

# 人口

本町の総人口は、国勢調査をベースに見ると一貫して増加を続けていましたが 2005(平成17)年にピークを迎え、人口減少がはじまっています。

また、年齢3区分別人口の割合を見ると、老年人口は増加が続いている一方で、生産年齢人口と年少人口の割合は減少しており、本町も少子高齢化が進展していることがうかがえます。

世帯数は、核家族化の進行と単身世帯等を対象としたアパートの増加等の影響により増加傾向にあります。



■ 年少人口(15歳未満) ■ 生産年齢人口(15～64歳) ■ 老年人口(65歳以上) ----- 世帯数

出典：国勢調査 ※ 総数は、年齢不詳の数を含むため年齢別人口の合計とは一致しない。  
同様に、年齢別人口の割合についても、100%にはならない。

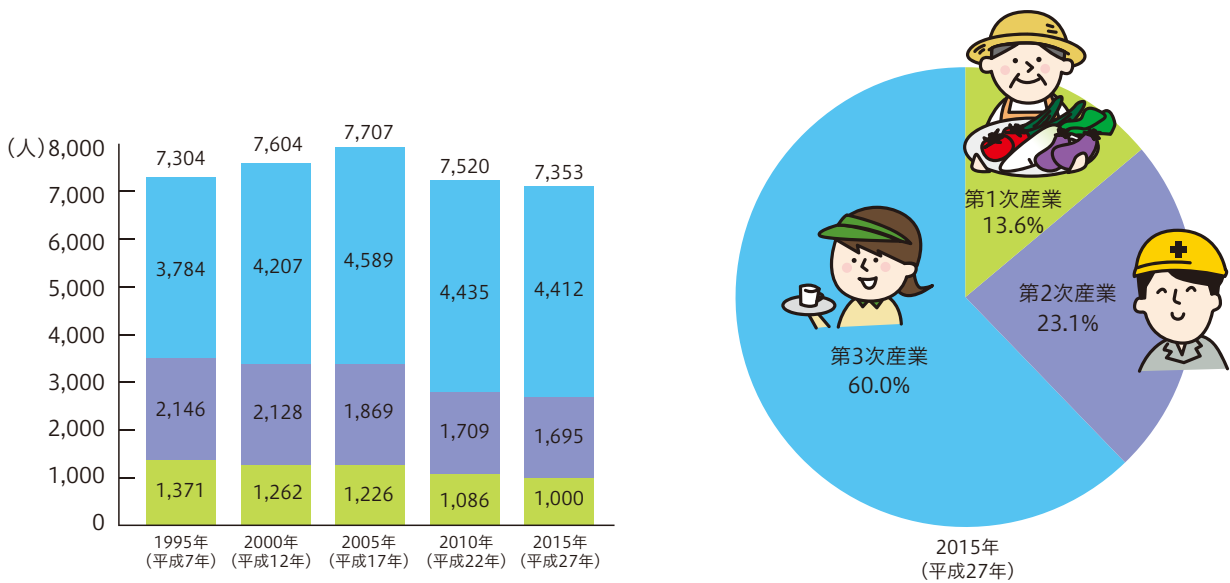
## 10年前との比較<sup>※</sup>



※数値は2005(平成17)年と2015(平成27)年の比較

# 産業別就業人口

本町の産業別就業人口は、国勢調査をベースに見ると農業等の第1次産業が大幅に減少し、製造業等の第2次産業も減少する一方で、サービス業等の第3次産業が増加しており、産業のサービス化が進んでいます。特に農業については、現在の経営者の高齢化に加え後継者が不足しているため、今後も減少していくことが見込まれており、町の広大な優良農地を維持していく観点からも大きな課題であるといえます。



■ 第1次産業 (主に農業、林業) ■ 第2次産業 (主に建設業、製造業) ■ 第3次産業 (主に運輸・通信業、卸売業、小売業・飲食店、サービス業)

出典：国勢調査 ※ 総数は、産業分類不能の数を含むため産業別人口の合計とは一致しない。  
同様に、産業別人口の割合についても、100%にはならない。

## 10年前との比較<sup>※</sup>



※ 数値は2005(平成17)年と2015(平成27)年の比較

# 財政

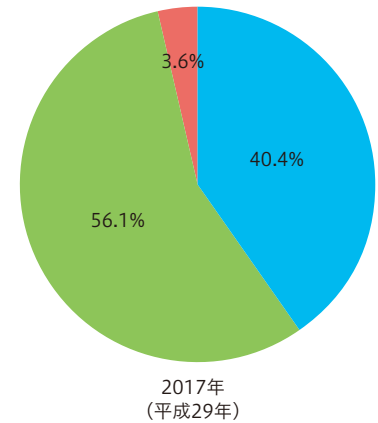
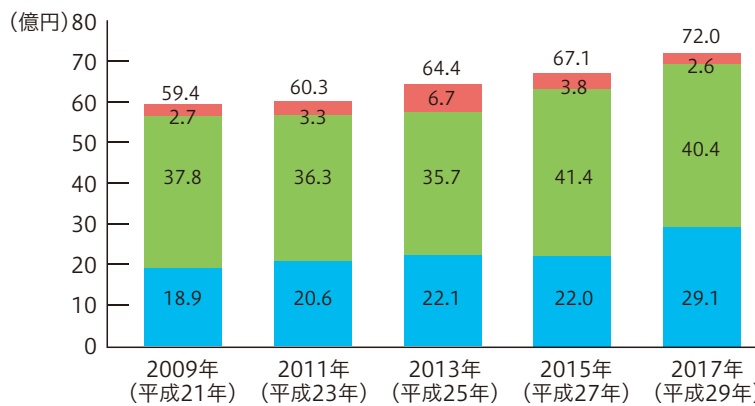
歳入、歳出ともに、決算額は増加しています。

歳入は、自主財源よりも依存財源の割合が大きい状態が続いています。今後は、生産年齢人口の減少に伴い、自主財源である町民税等の減少や依存財源である国庫支出金等の減少が予想されます。

歳出は、義務的経費が大幅に増加しています。今後とも、高齢化の進展や子育て支援施策の推進により、義務的経費のうち特に扶助費が更に増加していくことが見込まれています。

今後は、収納率の向上や町の産業の更なる活性化を図り一定の歳入を確保するとともに、歳出については、計画的に施策を展開し、限られた財源を効率的かつ効果的に活用していくことが重要です。

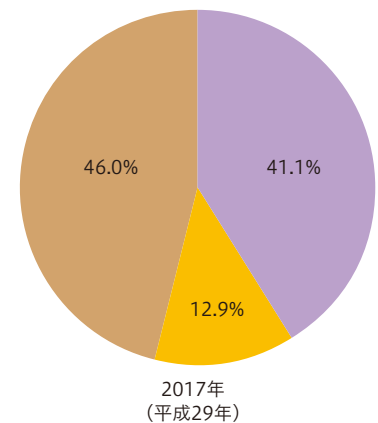
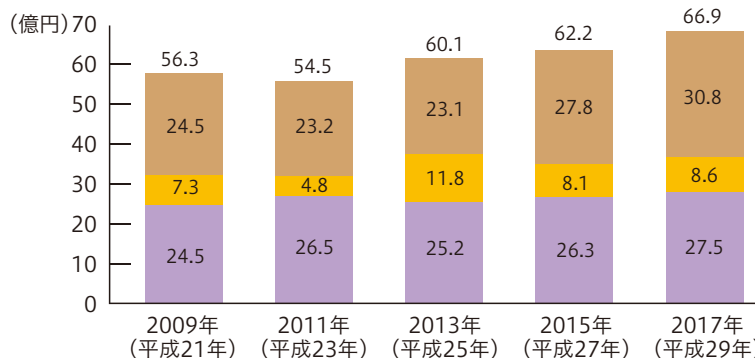
## 歳入



■ 自主財源 (主に町民税、固定資産税、分担金及び負担金、寄附金) ■ 依存財源 (主に地方交付税、国庫支出金、県支出金) ■ 借金 (地方債)

※ 総数は、端数処理をしているため内訳の合計とは一致しない。  
同様に、内訳の割合についても、100%にはならない。

## 歳出

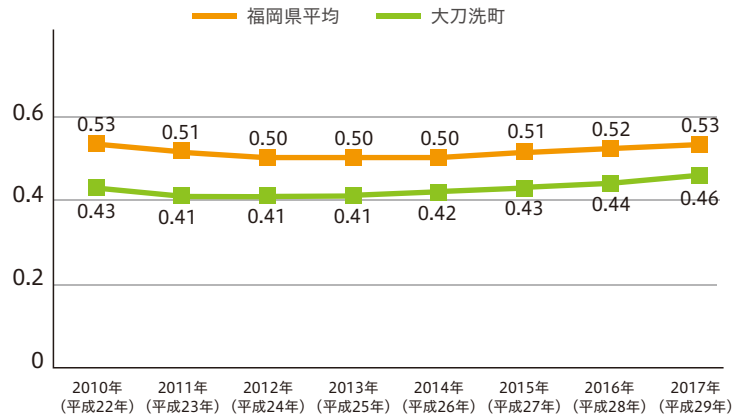


■ 義務的経費 (人件費、扶助費、公債費) ■ 投資的経費 (普通建設事業、災害復旧事業) ■ その他 (主に物件費、補助費等、繰出金)

## 財政力指数

数値が高いほど、自主財源（税収）が相対的に多いということを示します。

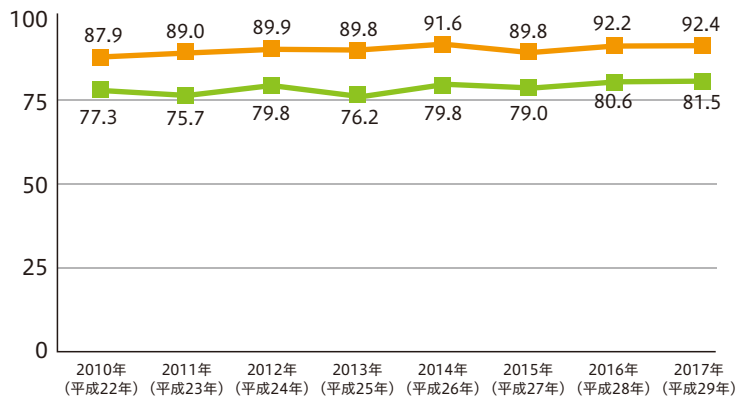
本町の財政力指数は、横ばいで推移していますが、県平均と比較し自主財源に乏しいことがうかがえます。今後は、自主財源の確保が課題となります。



## 経常収支比率

数値が低いほど、自由に使うことができるお金が多く、財政に弾力性があるということを示します。

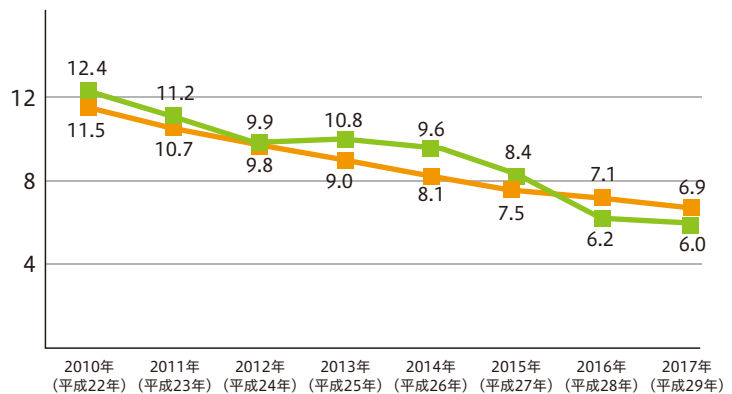
本町の経常収支比率は、県内でも上位に位置し、比較的柔軟な財政運営ができる状態にあります。今後も事業の優先度を見極め、経常的な経費を削減していくことが重要です。



## 実質公債費比率

数値が高いほど、支出のうち借金の返済に充てている割合が大きいということを示します。基準値を超えてしまうと新たな借金をする際に、許可や制限がかかる場合があります。

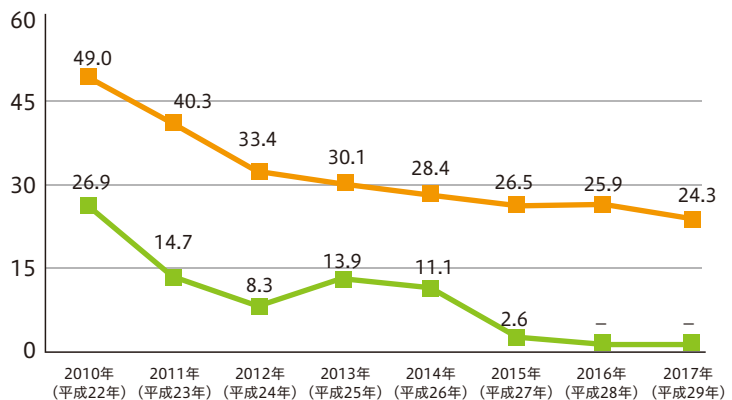
本町の実質公債費比率は、減少傾向にあります。今後は、学校施設の改修等による借金の増加が見込まれています。



## 将来負担比率

数値が高いほど、借金の総額が町の将来財政に大きな影響を与えるということを示します。

本町の将来負担比率は、2016（平成28）年度では「なし」になっています。これは下水道事業等の返済が進んだことや、計画的な返済によるものです。今後も、行財政改革※を進めて財政の健全化を図っていく必要があります。



※行財政改革・・・行政の組織や機能、財政のあり方を見直し改革すること。

# 町民ニーズ

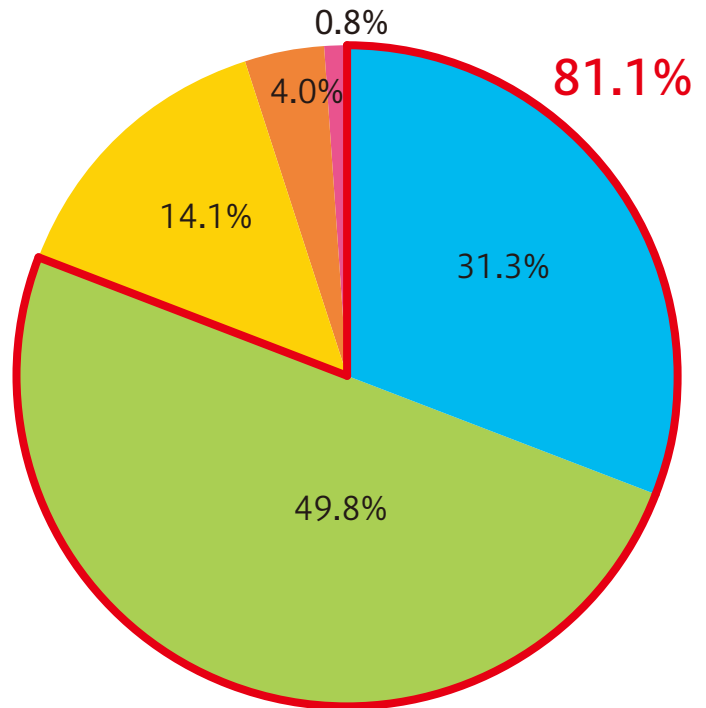
「第5次大刀洗町総合計画」の策定にあたり、町民の意見を計画に反映させるため、20歳以上の町内居住者の中から、1,500人（回収率33.5%）を対象にアンケート調査を実施しました。

主なアンケートの調査結果は次のとおりです。

## 住みやすさ

町の住みやすさについては、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせると81.1%となり、5人中4人が大刀洗町を住みやすいと感じています。

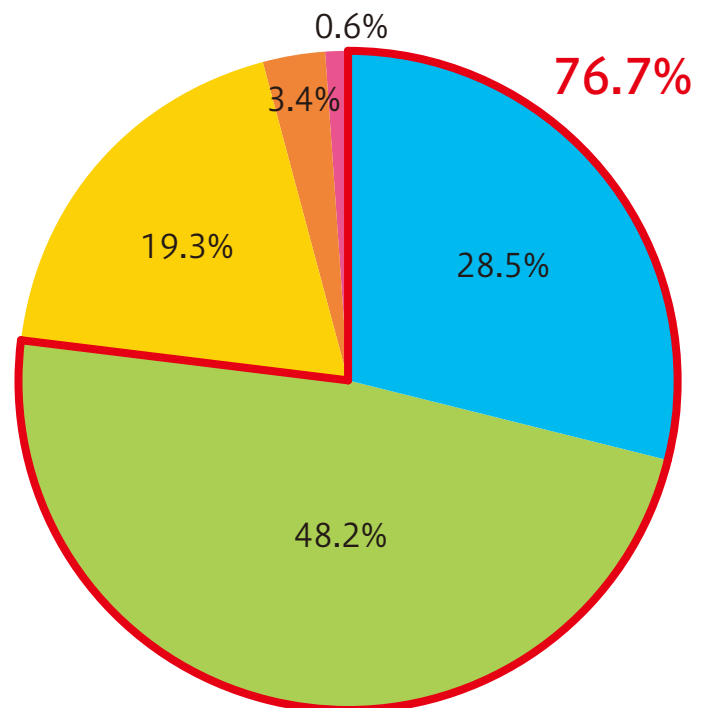
- 住みやすい
- どちらかといえば住みやすい
- どちらかといえば住みにくい
- 住みにくい
- 無回答



## 定住意向

定住意向については、「ずっと住み続けたいと強く思っている」「できれば住み続けたい」を合わせると76.7%となり、4人中3人が大刀洗町に住み続けたいと感じています。

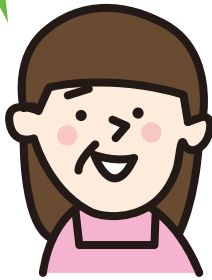
- ずっと住み続けたいと強く思ってる
- できれば住み続けたい
- 転出するかもしれない
- 早く転出したいと思ってる
- 無回答





## 町民の声

町のことをもっと知りたいけど入手手段が分からない。情報が届いていないよ。



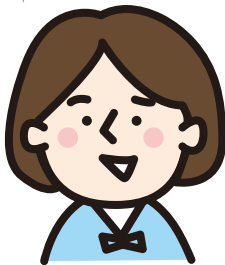
町の中にもっと買い物ができる場所や、若者が働ける場所があればいいのに。



町にずっと住んでいたいけど、車を運転できなくなったらどうしよう不安だ。



歩道が狭くて歩きにくい。夜暗い場所もあって少し怖いな。



最近は水害も増えてきたし自分ひとりで避難できるか不安だ。



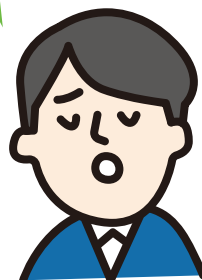
働きながら子どもを育てたいけど、保育所に預けられるのかな。



健康のために運動をしたいけど、近くに気軽に運動ができる場所はないのかな。



引っ越してきたけど、地域にうまく溶け込めるのか不安だな。どうしたらいいんだろう。



就職や進学で町外に出ていった子どもがまた地元に戻りたいと思えるような町にしないとな。



# 重要度と満足度

第4次総合計画に基づき取り組んできた様々な施策（30の施策）について、アンケート調査結果をもとに各施策の重要度と満足度を整理しました。

重要度は、町民が重要だと感じている順に順位づけをしています。最も重要度の高かったのは「学校教育の充実」、次いで「子育て支援体制の強化」、「社会保障制度の強化」、「防犯・交通安全対策の強化」、「公共交通利便性の向上」、「介護体制の強化」と続き、教育や子育て支援の取り組みが重要視されています。

満足度は、町民が満足感を得ていない順に順位づけをしています。最も満足度が低かったのは「公共交通利便性の向上」で、次いで「企業誘致・雇用・創業の支援」、「商工業の振興」、「観光・交流の推進」、「農業の振興」と続き、公共交通の現状や産業分野等の取り組みについて満足していないということが読み取れます。

## 30の施策

散布図No	30 施策
1	住宅・宅地の整備
2	公共交通利便性の向上
3	道路・河川の整備
4	上水道・下水道の整備
5	ゴミ処理・環境衛生の向上
6	景観・公園・自然環境の整備
7	防災・消防体制の強化
8	防犯・交通安全対策の強化
9	消費者保護の強化
10	農業の振興
11	商工業の振興
12	観光・交流の推進
13	企業誘致・雇用・創業の支援
14	健康づくり・医療体制の強化
15	社会保障制度の強化

散布図No	30 施策
16	高齢者支援体制の強化
17	介護体制の強化
18	障がい者支援体制の強化
19	子育て支援体制の強化
20	学校教育の充実
21	地域での子どもの教育の充実
22	生涯学習の充実
23	文化芸術の振興
24	人権教育の推進
25	男女共同参画の推進
26	地域コミュニティの活性化
27	町民参画の推進
28	情報共有・発信の強化
29	広域的連携の推進
30	健全な行財政運営の推進

重要度(高い順)

順位	施策	重要度得点
1	学校教育の充実	5.20
2	子育て支援体制の強化	5.08
3	社会保障制度の強化	5.07
4	防犯・交通安全対策の強化	5.03
5	公共交通利便性の向上	5.01
5	介護体制の強化	5.01
7	ゴミ処理・環境衛生の向上	4.95
8	防災・消防体制の強化	4.95
9	健康づくり・医療体制の強化	4.89
10	上水道・下水道の整備	4.88

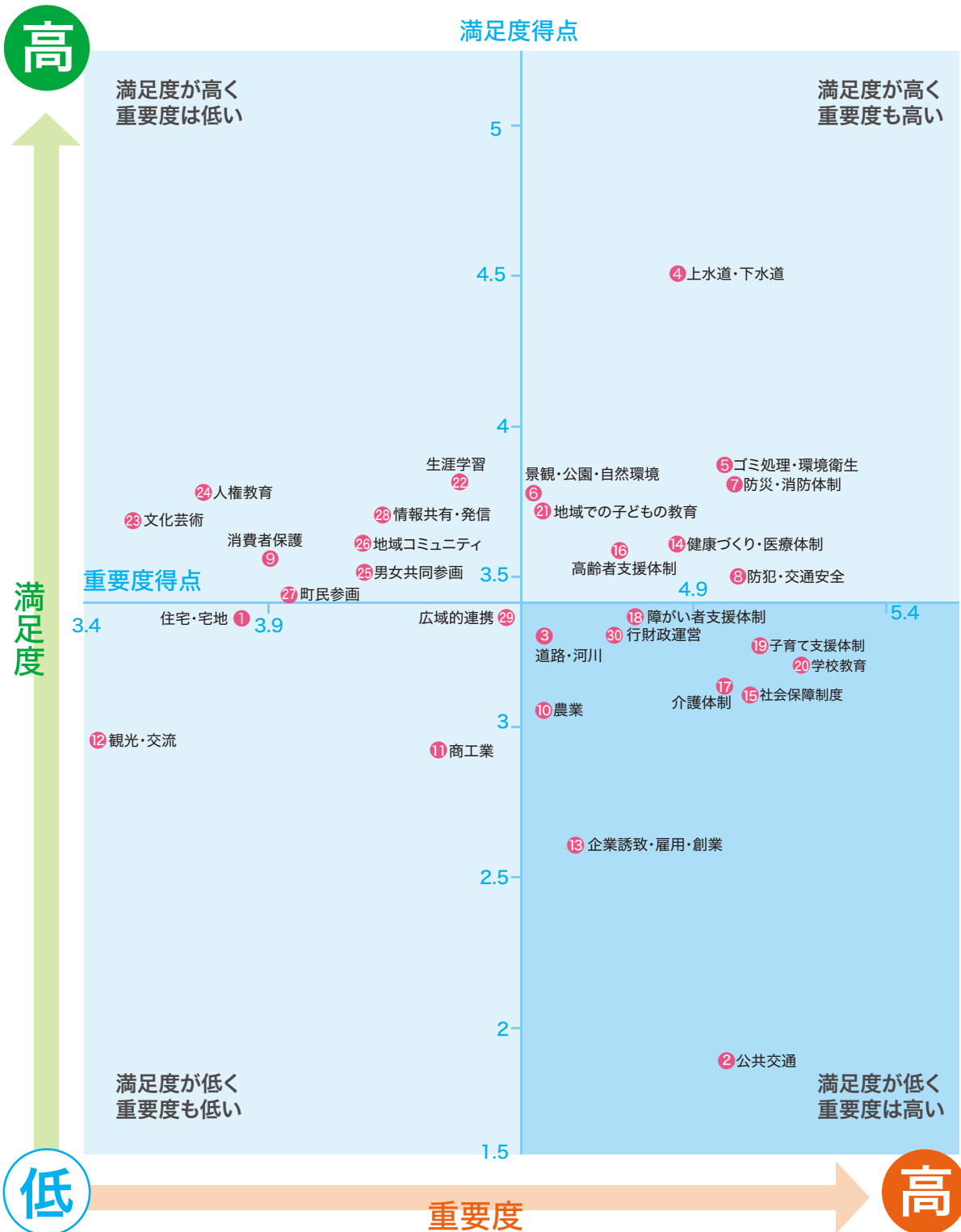
満足度(低い順)

順位	施策	満足度得点
1	公共交通利便性の向上	1.87
2	企業誘致・雇用・創業の支援	2.60
3	商工業の振興	2.91
4	観光・交流の推進	2.95
5	農業の振興	3.04
6	介護体制の強化	3.15
6	社会保障制度の強化	3.15
8	学校教育の充実	3.23
9	子育て支援体制の強化	3.24
10	健全な行財政運営の推進	3.25

# 散布図

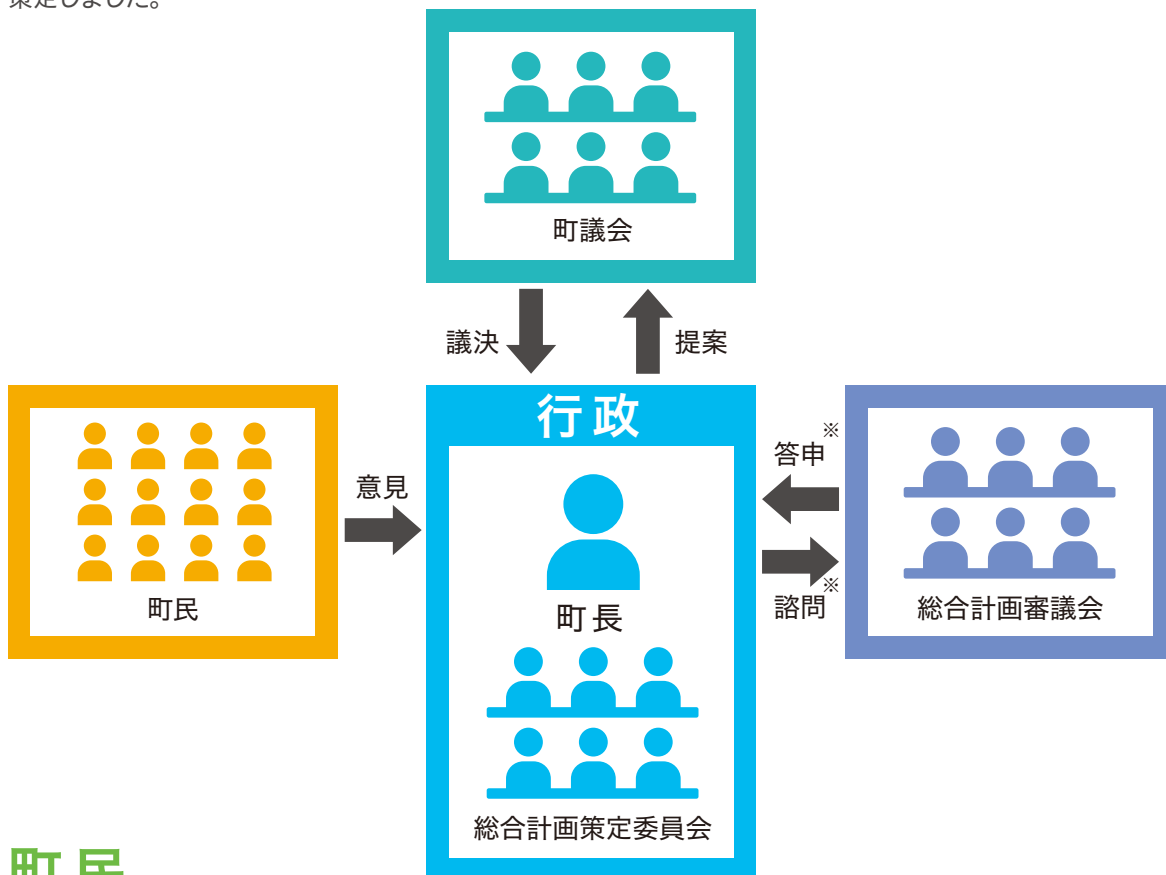
重要度と満足度の相関関係を散布図として整理しました。散布図は、横軸を右に行くほど重要度が高く、縦軸を上に行くほど満足度が高くなります。

散布図の右下に位置するほど、重要度が高いにもかかわらず満足度が低いと評価されており、今後の重点的な取り組みが必要であると考えられます。



# 策定の体制

「第5次大刀洗町総合計画」は、策定の過程から多くの町民の皆さんに関わっていただき、以下の体制で策定しました。



## 町民

町民意識や施策ニーズ等を把握するためのアンケート調査や、計画案について意見を募集するパブリックコメントに加えて、町の未来に関する町民参加型のワークショップを開催し、多くの町民の皆さんから意見をいただきました。

## 町議会

本町の目指す将来像を明らかにした基本構想について、最終案を提案し議決を受けました。

## 総合計画審議会

有識者・団体代表・大学生を含む町民によって構成された審議会では、計画策定に関する様々な意見をいただきました。

## 総合計画策定委員会

副町長を中心とし各所属長で構成された委員会では、重要事項の協議や各施策の全庁横断的な調整を行い計画案の作成等を行いました。

※答申……意見を申し述べること。

※諮問……意見を尋ね求めること。

# 推進の体制

「第5次大刀洗町総合計画」は、町の将来像やまちづくりの目標を実現させるために、必要に応じて町民、議会、策定に関わった審議員等に意見をいただきながら、PDCA サイクルにより検証・改善を加え推進していきます。



※PDCAサイクル…… Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、  
不断のサイクルとし継続的な改善を推進するマネジメント手法。